

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
908	哲学 <Philosophy>	哲学・演習		講義
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
哲学	布施 哲(FUSE Satoshi)		後期	水曜：3限
講義題目 Title	レオ・シュトラウス研究2			
単位 Credit	2			
備考 Others				
履修条件 注意事項 Requirements for registration	特になし			
授業の目的 Purpose	<p>哲学と社会・政治との関係性を念頭に置きつつ、原書講読ならびに現代の文脈におけるそれらの意義を検討すること、及び、受講生の研究発表の実践により、研究報告の技法を習得すること。</p> <p>This lecture aims to explore the relationship between philosophy and politics, with the viewpoint of what could be called "contemporary democracy".</p>			
授業の内容 授業の方法 Content	<p>レオ・シュトラウスにとっての哲学、宗教、政治哲学の各位置づけを吟味することから始める。とりわけ、ヨーロッパにおける神学の制度化以降「頹落」を重ねてきたとシュトラウスが考える「人間の生き方」は、近現代においてどのように変わりかつ変わらなかったかを討議する。後期の授業は前期授業の主題をより深く追究するとともに、現代の思想的、政治的状況との連関から考察することにより焦点を絞るものとする。</p> <p>第1回：レオ・シュトラウスの「哲学」概念・その2 第2回：レオ・シュトラウスの「哲学」概念・その3 第3回：レオ・シュトラウスと“頹落の歴史” 第4回：「ユダヤ原理主義」と現代政治 第5回：レオ・シュトラウスの「政治哲学」・その2 第6回：マキアヴェッリ、スピノザ、ホッブス、ルソー ~その3 第7回：マキアヴェッリ、スピノザ、ホッブス、ルソー ~その4 第8回：シュトラウスと同時代の哲学者たち・その1 第9回：シュトラウスと同時代の哲学者たち・その2 第10回：ユダヤ神学と精神分析・その2 第11回：フロイト、ラカンの精神分析・その3 ~哲学/科学が「通俗化された科学」か 第12回：フロイト、ラカンの精神分析・その4 ~哲学/科学が「通俗化された科学」か 第13回：学生発表・その1 第14回：学生発表・その2 第15回：まとめと総括</p>			
教科書 テキスト Textbooks	必要なその都度、指定する。			
参考書 References	必要なその都度、指定する。			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	授業中に用いられた用語や概念、あるいは授業で必ずしも言及されなかった派生的な用語、術語について、そして自らが関心を抱いた哲学者、思想家たちについて、自分自身で調べ、考え、あるいは授業に出席している他の受講生たちと折にふれて自発的に討論する時間を設けることが強く期待される。とりわけ、講義内容を身の回りの現実と照らし合わせてみて、何が合致して何が合致しないかを熟考することが非常に重要であるため、本講義で最も重要な「学習」は、むしろ授業が終わって教室を出たあとの各自の思索にこそあるといつてよい。			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	(1) 発表30% (2) 授業参加の積極性30% (3) 学期末レポート40%の三項目を評価対象とする。			

連絡方法
Contact
information

電子メールでの連絡を基本とする。また、直接面談を望む場合も、メールで予約を申し込むこと。